

清須学開講記念シンポジウムについて

1 目的

- 総合戦略において、清須学講座の開講や「マイスター」認定の仕組みづくり（清須学推進事業）は、「地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる」ための取り組みとして、重要な位置を与えられている。
- そこで、清須学の重要な構成要素となる本市の地域資源（朝日遺跡、清洲城、美濃路等）が持つ全国的なスケールを周知し、本事業の取り組みを始める上での機運醸成を図る。

期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の地域資源が有する価値の周知を通じたシビックプライドの醸成 ・清須学講座の受講希望者の増加（受講の動機づくり）
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外のシニア層 ・市内外の歴史に関心を持っている層

2 開催概要（案）

(1) 概要

会場	春日公民館（大ホール） 収容規模：600人
日程	9月17日（土）午後1時30分～（清須学講座の受講申し込み期間中に開催） ※ 午後1時に開場予定
周知方法	広報紙（折込チラシ）、ホームページ、市内外の観光施設等でのチラシ展開、その他（金融機関への周知協力依頼等）
当日の進行	① 主催者あいさつ（清須市長） ② 基調講演：[50分]（小和田哲男先生） ③ パネルディスカッション [55分]

(2) 基調講演

テーマ（案）	「物語としての清須城 ～時代を駆け抜けた城～」 <ul style="list-style-type: none"> ・清須城が「中世の武家屋敷」から「近世城郭」へと時代とともに成長していく様は、武士（あるいは武士を支配層とする社会）のあり様の変化を反映している。清須城がこの国の歴史をどのように見つめた城だったのかについて、当時の全国的な世相や時代の潮流を踏まえながら、説き明かしていただく ・そこに全国に名を馳せた戦国武将達の活躍で彩りを添えていただき、「清須城の物語」としてご講演いただくことを想定 ・可能な範囲で朝日遺跡等にも触れていただく
講演者	小和田 哲男 先生 （静岡大学名誉教授） [昭和19年生まれ（72歳）] ※略歴、著作は公式HPを参照 戦国時代史研究の第一人者として、テレビ番組での解説や大河ドラマの時代考証ではおなじみの歴史学者。分かりやすい解説とソフトな語り口が人気。一般向けの著作（監修含む）が多く、戦国時代のみならず、日本史全般を扱う内容も多い。 【略歴】 昭和47年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了 平成22年3月 静岡大学（教育学部教授）を定年退職 平成23年4月 現職 【専門】 日本中世史（特に戦国時代史） 【主な著作（監修含む）】 ※専門分野のみならず、日本史全般を扱う著作も多い <ul style="list-style-type: none"> ・『東海の戦国史』（ミネルヴァ書房、2016年） ・『名城と合戦の日本史』（新潮文庫、2016年） ・『日本人は歴史から何を学ぶべきか』（三笠書房、1999年） ・『戦国の城』（学研新書、2007年） ・『悪人がつくった日本の歴史』（中経の文庫、2009年） ・『詳細図説 信長記』、『詳細図説 秀吉記』、『詳細図説 家康記』（新人物往来社、2010年） ・『誰も書かなかった 清須会議の謎』（中経の文庫、2013年）

(3) パネルディスカッション

テ　　マ	郷土の歴史と地域の誇り				
取り回しテーマ	1巡目：基調講演を受けて、清須城（清洲城）について思うこと 2巡目：地域資源の魅力を市民が共有することの意義				
役　　割	コーディネーター	アドバイザー	パネリスト		
氏　　名 （肩書）	内田 俊宏 氏 （中京大学経済学部客員教授）	小和田 哲男 氏 （静岡大学名誉教授、基調講演者）	山田 功 氏 （中日信用金庫理事長）	加藤 富久 氏 （郷土史家）	原田 幹 氏 （愛知県教育委員会文化財保護室主査）
紹　　介	テレビやラジオの番組で幅広く活躍中のエコノミスト 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長	—	清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議等で清須学を提唱	元愛知県立高等学校教諭で、清須市文化財保護審査会委員（副委員長）を務める	学芸員 著書『東西弥生文化の結節点・朝日遺跡』ほか